

令和元年度 第2回 子ども部会

日 時：令和元年 11 月 15 日（金） 14：00～16：00 場 所：瀬戸内町役場 4 階会議室
参加者：県療育等支援事業（三環舎）・療育施設（愛かな、聖隷かがやき、ここ園、にこぴあ、のぞみ園、ヒマワリクラブ、ヒマワリ就学塾）・相談支援事業所（しゃきょう、つなぐ、のぞみ園）・保育（高丘保育所、阿木名保育所）・教育（鹿児島県子ども総合療育センター、瀬戸内町教委、奄美市教委、奄美高、名瀬小）・医療（瀬戸内徳洲会病院、ひさの助産院）・行政（名瀬保健所、瀬戸内町保健福祉課、宇検保健福祉課、奄美市福祉政策課、）事務局（ぴあリンク奄美）
合計：37 名

【会次第】

1. 開会あいさつ（瀬戸内町 保健福祉課 課長 徳田 義孝氏 ）
2. 自己紹介
3. 趣旨及び事業等説明
 - ① 奄美地区地域自立支援協議会及び子ども部会の体制について（ぴあリンク奄美 福崎）
 - ② 保育所等訪問事業の説明（プリント配布）
 - ③ 県療育等支援事業取り組み状況報告（チャレンジドサポート奄美 松野 恵子氏）
4. 鹿児島県子ども総合療育センターより
「鹿児島県の他地域での取り組みについて」：鹿児島県子ども総合療育センター 黒木 音枝 保健師

（ 休 憩 ）

5. グループワーク（6.発表も含む）

本日のテーマ：

「こどもの支援における多職種連携」について地域での困り感を共有し、解決するためのできるだけ具体的な方法を考えましょう。

- ①多職種連携（教育、医療、福祉、行政等）こんなことで困った、こんな時はどうすればいい？
- ②こうすればうまくいく！？多職種連携。みんなでいい方法を考えよう。

（困ったこと・困っていること）

- ・何とか高校も卒業し、内地で就労したが、挫折して帰省した事例。大人になって知的障がいがあったとわかった。小学校や中学校でわかる手段はなかったか。
- ・連携ができて、異動があることでうまく引き継がれないことも多い。
- ・保育所等訪問支援事業の難しさを感じている。（学校側も事業について理解していないこともあるが、同じテーブルで、話し合うことが大切であると感じている。
- ・子どもと保護者の思いのズレがある場合、そのすり合わせが難しい。
- ・教育機関、教育現場との連携がしづらい。
- ・学校間の連携（対象児童の情報不足）
- ・医学的介入の難しさ
- ・生活圏、教育圏での様子
- ・子どもが発達障がい、親が精神障害を患っているというケースも増えている。
- ・個人情報について、子どもに関する情報共有の難しさがある。福祉間では必要な場合、理解があるが、教育では個人情報の取扱が非常に厳しく状況詳細の情報が得られない。

- ・教育との連携、学校のハードルの高さがある。
- ・地域の学童では、支援の必要な子は断れてしまい行き場がない。
- ・福祉と学校教育現場の連携ができていない。
- ・学校側の立場からすると、「教育は個人情報を出してはいけない」、福祉の立場では「そんなことを言っていては、連携できない」など立場の違いによる、個人情報の取り扱いについて考えの相違がある。（⇒どのような手順でどのように扱えば、個人情報を適正に扱えるのかという議論にすらたどり着いていない）
- ・職員の中にも、発達障がいのある特性がある職員もいる。早い時期に支援があれば、本人も周りも困り感の軽減に努めることができる。

（疑問におもっていること・知りたいこと）

- ・障がいに関することで、相談を受けた際に、だれにどう問い合わせればよいかわからない。
- ・療育までは必要ないと考えているが、集団の中で過ごすことがうまくできない子への支援の確保をどうすればよいか。
- ・学校で何かしらの支援を要すると思われ、保護者へ相談するが、保護者が認めず理解が得られないことが多々ある。一般就労受けるが落ちてしまう。高校生としての期間はなんとかなるが、その後離れてしまう。（どのように支援をすればよかったか）

（こうあってほしいと思う事）

- ・リレーファイルがもっと活用されれば、入学時の面接などで、発達障がいなども、もっと理解し対応できるのではないか。
- ・人と人がもっと連携することが、大切だと感じる。
- ・連携をとるそれぞれの現場で、障がいに対する考え方や支援方法のズレを感じている。うまくいくために、共通した研修などを実施出来たらいいのでは。
- ・発達障がいに関しての勉強会を学年単位で行ってはどうか。
- ・大人子ども分けずに利用者への温度差をなくしていくことが必要。
- ・行政は教育と繋がるネットワークはできているか、方向性などコーディネートし、それぞれの役割を理解、分担することが課題だと思う。
- ・親の会の大事さ、お母さんの困り事の解決が大きな課題である。お母さんが気軽に相談できる場所があれば、困り事悩み事を共有し、次も頑張ろうと思えることもある。そんな心のサポートができる場所があればいい。
- ・リレーファイルの活用をする。島から出て就職してもつまずき戻ってくるパターンがある。そのようなことがないように、つながりのある支援のためリレーファイルを活用できるようにする。
- ・いろんな機関の連携をうまくとりまとめていく（コーディネートする）方が必要。例えば、コミュニティーソーシャルワーカーが制度として、できればいいのでは。

（実際に取り組んでいること）

- ・障害児と親のペアレントトレーニングをする前に、まず職員がすることで、職員の資質向上になりより良い支援につながる。
- ・リハビリ専門医と一般の医師では、装具の調整が違う。医療と教育学校との連携し、リハビリに学校の先生に来てもらう等の工夫をしている。
- ・学校、家庭（本人と親）、福祉の三者の関係は、今まではそれぞれとのやり取りだけであったが、相

談支援という職業が出てきたことで、学校の先生が変わっても相談支援専門員がうまくつないでいけるようになってきた。もっとこのようなコーディネートする立場が大事になってくるのでは。

7. 【事務局より】

- ① amami「そだちサポート」プロジェクトについて
- ② 第2回こども支援net（児童発達管理責任者情報交換会）の開催について
令和元年12月20日（金）11：00～12：00 にびあリンク奄美にて開催予定。
- ③ サービス情報シートの作成について
児発管情報交換会の意見をもとに、子ども部会版サービス情報シートを作成
→各事業所にデータを送付予定（ご記入の上提出をお願いいたします）
→提出事業所から順番に協議会HPの事業所検索ページにて公開予定。